

おわりに

本報告書は、アジア経済研究所が伝統的に培ってきた「現地統計を用いたマクロ計量分析」を、これまで手つかずの状態であったカンボジアに適用するために、カンボジアの統計整備状況を概観するところから始めた。結果として、所期の目的通りカンボジアの公式統計を最大限用いたマクロ計量モデルを作成する運びとなった。さらに単純なものとはいえ、シミュレーション実験も一通りこなせるものが作成できたということは、正直なところ、うれしい誤算であった。

統計上の制約を考えると、あまり緻密な構造を求めることは不可能であったが、カンボジア経済を表現するマクロ計量モデルが作成できる程度のデータセットを用意できる、という、逆説的ではあるが肯定的な結果が出せたものといっていいただろう。今回の作業を通じて、カンボジアモデルについては、それが作成可能か、という可能性 (possibility) の段階をクリアし、次はどの程度まで精緻化できるかという蓋然性 (probability) の段階に昇華させる、その道筋をつけたものとする。

【参考文献】

- [1] 中村亨 (2008) 「経済発展の計量分析」神戸学院大学経済学研究叢書 16, 晃洋書房。
- [2] Uemura J. et al. (2007) "Estimation of FTA Effects with PAIR Minimum Link Model," in FTAs in East Asia -Final Reports-, Uemura ed., IDE-Jetro.
- [3] Toida M. and J. Uemura (2005) "Trade Link Method," in FTAs in East Asia -Trade Link Model (I)-, Toida and Uemura eds, IDE-Jetro.
- [4] キオフィラフォン・プーペット、豊田利久 (2005) 「ラオス経済の計量モデル分析 - LAOMACROMODEL-2 の開発とシミュレーション - 」(天川直子・山田紀彦編「ラオス 一党支配体制下の市場経済化」アジア経済研究所)
- [5] 豊田利久、キオフィラフォン・プーペット (2004) 「ラオス経済のマクロ計量分析 - マクロ・モデルの開発とシミュレーション - 」(天川直子編「ラオスの市場経済化 - 現状と課題 - 」アジア経済研究所)
- [6] 天川直子編 (2004) 「カンボジア新時代」研究双書 539、アジア経済研究所。
- [7] キオフィラフォン・プーペット (2003) 「マクロ計量経済モデルによるラオス経済分析」(博士論文), 神戸大学大学院国際協力研究科。
- [8] Aotsu, M. (2000) "The positive analysis of macroeconomic policies: suggestion about a development policy," in Macroeconomic management in term of economic down turn, vientiane: state planning committee, pp. 114-134.
- [9] ケオラ・スックニラン (1998) 「ラオス経済及びラオス経済の2部門成長モデル」(修士論文) 名古屋大学大学院経済学研究科
- [10] 三井海上基礎研究所編 (1998) 「ASEAN 新規加盟諸国における経済構造等の実態調査」(三井海上基礎研究所)
- [11] Cambodia Statistical Yearbook, 各年版
- [12] アジ研ニュース 43 (1984年2月号) 「特集 ASEAN 経済の変化を予測するリンクモデル」
- [13] アジア経済研究所, Estimated Models and Data for PAIR(EARM) Project, 作業用内部資料、各年版